



鍾乳洞を流れる地下川の源をめざし、 岩を乗り越え、川を遡り、真の闇を体感する… 本物の洞窟探検がここにある。

『玉泉洞』について

珊瑚礁の海に囲まれ、亜熱帯の島々が連なる沖縄。そこには600カ所以上の鍾乳洞が存在しています。そのなかでも最大の鍾乳洞が玉泉洞です。約30万年の年月をかけて創られた玉泉洞は全長5,000m、鍾乳石100万本以上を擁し、国内最大級の規模を誇ります。玉泉洞の最初の探検・調査は愛媛大学学術探検部によって行われました。1967年から7年の歳月をかけて、さまざまな困難をのりこえ、この巨大洞窟の全貌を明らかにしました。今現在、玉泉洞の観光洞エリアは890m、残りの4,000m以上は研究用に保存された未公開エリアとなっています。

洞窟探検とは？

洞窟探検は一般的にケイビング (CAVING) とよばれ、洞窟探検家のことをケイパー (CAVER) といいます。19世紀の終わりにヨーロッパではじまり、今では欧米を中心に子供から大人まで世界中の人々が楽しんでいるスポーツです。また、ケイビングは学術的な要素も多く、地質学、地形学、水理学、生物学、考古学など多岐の分野にわたっています。洞窟の森羅万象を明らかにする学問を洞窟学といいます。ケイビングの魅力のひとつを言い表すなら、未知なるものへの探究です。衛星技術の発達した現在、地理的な探検はすでに終わったと言われていたなかで、地上に残された最後のフロンティアが洞窟です。人間が自らの足で辿りつかなくては知ることのできない世界が洞窟には残されています。人跡未踏の地を探検したいという欲求、それは本来人間が持っている生の原点の一つかもしれません。

非日常感

日常からかけ離れた世界に身を置く緊張感！

Reality

バーチャルではないリアルな体験！

野生の感覚

五感が鮮やかに研ぎ澄まされていく！

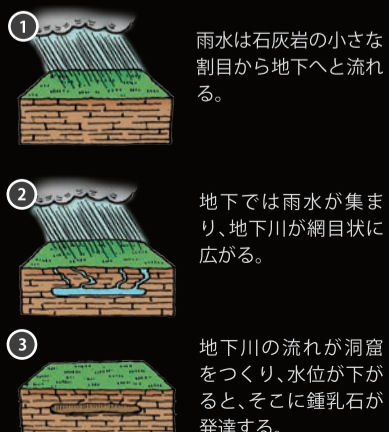
センスオブワンダー

自分をはるかに超える自然を深く感じ取る！



鍾乳洞のできた

『鍾乳洞』とは石灰岩にできた洞窟のことである。地面に降った雨水は、地下水となり地中の石灰岩の隙間を溶食・浸食し、数万年以上かけて洞窟を形成する。



鍾乳石のできた

地上に降った雨水は、空気や土中の二酸化炭素を取り込んで弱酸性になると、地中の石灰岩を溶かしながら、地下水となって洞窟の天井や壁面にしみでてくる。地下水には二酸化炭素のほか石灰岩由来の炭酸カルシウムも溶け込んでいるが、洞窟内の二酸化炭素分圧の影響で地下水から二酸化炭素が脱気されると、炭酸カルシウムが晶出・沈殿し、洞窟の天井・壁面・洞床には多様な鍾乳石が創られる。



鍾乳石の種類



鍾乳洞にすむ生物



太陽の光が届かない洞窟には、暗闇の環境に適応した生物たちが棲んでいる。亜熱帯の沖縄の鍾乳洞では、トカゲモドキの仲間や、国内最大の淡水エビ、1.5m以上に成長するオオウナギなど、他の地域の洞窟では見ることのできない生物が息している。